

お礼のことば

車の両輪に例えられることが多い「母子保護連盟(母連)」と「母子会」。その一方の県母連が七十年余の歴史に幕を下ろすことになりました。

十年ごとに発刊されてきた記念誌を紐解くと、結成当時の篤志家の方達の「母子家庭をなんとかして救うのだ」という使命感に突き動かされるかのような凄まじいエネルギーが伝わってきます。

当時の母子家庭の方達も、それを力に自らも立ち上がり、以来、「母子会」と「母連」は、当事者団体と支援団体という関係性で手を携えて活動してまいりました。様々な活動の成果により制度が整ってゆくにつれ、各地で次第に母連が姿を消してゆく中、令和の時代まで活動を続け、ひとり親家庭を支え続けてくださった、群馬県母子保護連盟の皆様。その貴い歴史、先輩方のご尽力によって今があるのだということを改めて胸に刻み、母子会は歩みを進めてまいります。

未だ解決が見いだせないウクライナ戦争。ここでもまた深く傷ついたひとり親家庭が生まれていると思うと胸が痛みます。

こどもたちが平和に、幸せに生きていける社会であるよう、これからも私達の活動を見守っていただければ幸いです。

ほんとうに長い間、ありがとうございました。皆様の御健勝と御多幸を心よりお祈りいたします。

令和5年3月

群馬県母子寡婦福祉協議会会員一同